

久留米市文化財保存活用地域計画協議会(令和3年度 第1回)会議録 (HP用)

1. 日 時：令和3年8月5日(木) 15:00~16:30
2. 場 所：みんくる会議室(くるめりあ六ツ門)
3. 参加委員：委員：赤司(以下、赤)、吉田(以下、吉)、永松(以下、永)、古賀(以下、古)、
松枝(以下、枝)、立石(以下、立)、松本(以下、本)、矢次(以下、矢)、
野口(以下、野)、穴見(以下、穴)、杉原(以下、杉)、入佐(以下、入)
4. 事務局：久留米市教育委員会教育長：井上
久留米市市民文化部：竹村部長、深堀次長
(久留米市市民文化部文化財保護課)(以下、市)：水島、丸林、白木、塚本
神保、萩野、小川原、大隈

5. 議 事

1. 開会のことば

2. 委嘱状交付

3. 教育長挨拶

4. 新会長・副会長選任

会長を赤司氏、副会長を矢次氏に選任。

5. 新会長・副会長挨拶

6. 報告：文化庁長官による認定について

<事務局からの報告>

- ・法的根拠…平成30年の文化財保護法の改正により、市町村が作成する文化財保存活用地域計画の文化庁長官による認定が制度化された。
- ・認定協議の経過…文化庁との協議を経て、6月24日に「文化財保存活用地域計画に係る認定申請書」を提出した。7月16日に文化審議会文化財分科会へ諮問、審議が行われ、認定された。
- ・認定されるメリット…文化財登録原簿への登録への提案、事務処理の特定、補助金の優先採択や申請が可能となる。特に補助金は種類等今後も増えていく可能性がある。

7. 協議：久留米市文化財保存活用地域計画の運用について

<事務局からの報告>

計画は、久留米市が行っていく文化財保護行政のマスタープランの側面と、新たな取り組みとして地域とともに歴史遺産を守っていく仕組みとしての「筑後川遺産」の推進の側面が特徴である。市職員は文化財保護行政として行う業務が地域計画にどのように対応しているのかを認識していく。「筑後川遺産」は、筑後川を縦軸として、地域それぞれの特色となる歴史的なストーリーを地域とともに見出していく。筑後川遺産を運用していくうえで、要項が必要となってくるため、今年度中に内容を詰めていく。今後の課題として、増え続けていく筑後川遺産を実現するための方法、文化財保護課の体制づくりなどがある。

●増え続ける筑後川遺産

- 赤) 筑後川遺産は増え続けていくため、どこかで制限が必要ではないか。
- 市) 筑後川遺産として登録する・しないの協議を協議会で実施するが、前段階として筑後川遺産について地域と入念に話し合い、理解してもらう。
- 赤) 実際にやってみないと分かりにくい。地域の歴史遺産をより魅力的にするためにテーマを地域で一つに絞るなど目安が必要。
- 矢) 分野や地域の偏りが出てくると思うので、協議会などでバランスをとる必要がある。
- 入) 市としてどのくらいの数の筑後川遺産の登録を考えているのか？
- 市) 計画の98頁に候補として挙げている部分プラス α を想定している。
- 赤) 数については今後も議題となると思う。多く登録したいのはわかるが、希少性も大事だと思う。

●筑後川遺産と教育

- 野) 小学生・中学生など子供たちが地域を魅力的に思うことができるように、歴史遺産を学校教育に還元する機会があったほうが良い。
- 市) 計画の中で歴史遺産を学び学校教育・社会教育へ活かすということを一つのテーマとして挙げている。文化財保護事業の一環として、歴史的なものを継続して学校教育に紹介していく。
- 本) 文化財マップ等の資料があるが、紹介するだけでは伝わらない。一步踏み込んだ取り組みが必要。
- 市) 計画の内容を詰めていく中で検討していきたい。

●協議会委員の役割

- 穴) 協議会委員の役割は何なのか？筑後川遺産登録以外については何をすればよいのか？たくさんある推進プランの優先順位はどうなっているのか、先のことが見えない。
- 市) 今日はまだ整理ができていない。今回は筑後川遺産の運営の仕方について主にご意見をいただいているが、今後はマスタープランについても推進プラン等の優先順位などを決め、ご指導いただければと考えている。

●市の体制について

- 杉) 筑後川遺産を発見した後、形づけていく段階が重要である。市民の窓口となる場所が必要であり、市の体制を整えることが望まれる。
- 市) 筑後川遺産の種まきは市からも働きかける。磨き上げるところは大事なので、体制については今後検討していく。

●担い手育成

- 古) 地域の学生、保護者が地元の歴史を知る、経験するシステムをどのように作るかが課題(八女市童男山古墳での活動を事例紹介)。
- 枝) 竹野小学校で久留米絃製作の体験を長年実施している。技術の継承は難しいが、どのように地域と手を取っていくかが重要である。
- 永) 久留米市は庭園文化が育まれた地域でもある。
- 市) 市内にある庭園など、市民にあまり知られていない。市民との関係が離れてしまっている歴史遺産をどのように再び結び付けていくかをこの場で検討していきたい。
- 赤) 地域の担い手を育てないと守っていけない。やはり最初は数を少なくして、取り組み内容を充実するべき。

●計画と連動した事業実施

- 矢) 事業の実行者が計画との連動を意識していないといけない。計画に職員一人ひとりが関わり、結びついていないとすばらしい計画を作っても意味がない。
- 市) 事務局も同様に考えている。職員それぞれが計画を意識し、計画との対応を認識しながら業務を行わなければならない。

8. その他

今後、協議会は年1回開催予定であるが、令和3年度は令和4年3月に開催予定である。

9. 閉会のことば